

ティーチング・ステートメント

所属 診療放射線学科

名前 菊池 明泰

作成日 2024年2月26日

【責任】

保健医療学部診療放射線学科に所属し、専門科目は臨床系の科目を中心とした教育・研究活動を行っている。主な教育活動は核医学検査および臨床業務に関連した教育で、その他として学部生および修士ゼミ生の研究支援、学生キャリア支援、国家試験対策などがある。

【理念】

当学科で学ぶ学生のほとんどが診療放射線技師として働くため、将来の自分がどのような仕事をするのか、施設内での自分役割について学生のうちから理解し、やりがいのある職業として感じてもらうような講義を常に心掛けている。その理由として、具体的な業務内容を理解することで、診療放射線技師業務の重要性や社会的責任を認識することになり、在学中のモチベーション維持にもつながると考えたからである。

上記を踏まえ、私の教育理念は相手の立場に立って接することができ、自分が抱えている課題をみずから解決できる人材の育成である。また、自分自身も有意義で成果のある仕事ができ、研究においても学生や院生と共同で進めることで、ともに研究の楽しさや奥深さを感じるような環境をつくることも理念としてあげたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、「自ら学習法を見つける」、「基礎力と応用力を身に着ける」「社会人になるための基盤能力の取得」という方針で教育を実施している。以下に具体的な方法について提示する。

「自ら学習法を見つける」

- ・授業の中で、学生自身が考え答えを導き出すように科目に対応した過去の国家試験問題を再編し、領域ごとに問題提示し解答させている。また学生自身に解説させその内容を補う形で教員が都度指導する形にしている。

- ・演習問題では、各自ノートを作成させ知識をまとめる方法を自分なりに工夫するよう指導している。また、一定期間でノートを回収しフィードバックも実施している。

- ・国試対策として、過去問でわからない部分についてはノートを作成。適宜その内容を学生自身が復習したり、教員とともに口頭試問をしたりすることで、理解を深めるようにしている。

「基礎力と応用力を身に付ける」

- ・授業内で小テストを実施。基礎的な言葉の説明については初めのうちに実施し、後半では言葉の理解とともにその内容を問う設問を設定し解答させる。
- ・学生自ら国家試験の問題を作成し解説もしてもらおう。自ら問題作成を行うことで、作成者の意図を理解し本番の国家試験にも対応できる応用力を身に付けてもらおう。
- ・ゼミ活動での研究支援は、学生自らが課題に対する資料を調べ、そこから予想させる解答を学生自身で構築できるような環境作りを行っている。

「社会人になるための基盤能力の取得」

- ・実技試験などで、患者役と技師役に分かれそれぞれの立場を考えながら実技を行うことで、相手の立場にたった考えとコミュニケーション能力を高めるとともに、患者の不安に感じることや、介助してほしいことなどを感じ取る能力を身につけてもらおう。
- ・同学年の学生で協力して実技試験に向けた演習を行わせることで、助け合いに関するアウトプットをしながら演習を行うことで、より理解が深められる内容となっている。
- ・ゼミ活動を通じ学生同士での協同作業を行うことで、傾聴力や発信力などのコミュニケーション力を身につけてもらおう。
- ・ゼミ活動での卒業研究および発表に関して、学生自身が考えるテーマや内容を尊重し、教員はあくまでも共同研究者として接するよう心掛け、自主的な考えで進めることができるようなスケジュールや環境づくりを目指している。

【評価・成果】

- ・担当科目のアンケートでは9割以上の学生が、授業を通じて新たな興味や問題意識を持つことができたと回答している。
- ・実技試験を実施してからの実習に臨むことで、外部の臨床実習先から学生の患者への対応について高評価をいただいている。
- ・学生自身も実技試験を通じ、職業に対する具体的なイメージが確認でき、モチベーションが上がったと回答を得ている。

【目標】

「短期目標」 (2年以内をめど)

- ・ 学生からの授業に対するフィードバックをより定期的に行うことができる環境作りの構築
(授業内での小テストや臨床画像を用いたより実践的な内容)
- ・ 教科書をベースに、予習・復習しやすいスライド教材の構築

「長期目標」

- ・ 学生自身が自主的に勉強できる教材の開発
- ・ 国家試験に対応した演習内容の改変
- ・ 卒業してからの臨床現場でも役立つ内容の教材開発